

山田としお 国政報告



「食」「農」「地域」を 全力で守りましょう

令和4年を 振り返って

コロナ禍からの世界経済の混乱と回復に伴う原油の需要増や、突然、ロシアによるウクライナ侵攻が起き、世界の政治・経済の混乱が勃発し、今だに収

束しないまま対立が続いています。こうした中で、我が国は、原油価格の高騰に加え、肥料、飼料、小麦等の食品原材料の価格高騰の問題に直面しています。

この問題は長期間にわたり続くと見られており、政府は肥料や飼料の高騰対策を打ち出し

ましたが、農業経営への影響が今後も続く大問題となっています。

そして、昨今の円安も重なり、海外からの食料や農業生産資材等の輸入に支障をきたす事態となっていることから、我が国の食料自給率は、先進国の中で極めて低い水準であることと相まって、食料安全保障の問題が浮き彫りになってきました。自由民主党では2月から食料安全保障に関する検討委員会を立ち上げ（私は副委員長に就任）、何度も議論を重ねて5月に提言をとりまとめ、この提言を政策に反映すべく取り組んでいます。

加えて、毎年のように異常気象による災害が発生しており、8月には東北・北陸の集中豪雨や、台風による農業被害が多発しました。このような中、私は10月に自由民主党の農林水産災害対策委員長に就任し、復興支援に取り組むこととなりました。

ゆるぎない決意。 確かな農政に向けて、頑張ります！

令和4年は、米政策をはじめ、食料安全保障の強化に向けて、頑張っまいりました。しかし、政策立案とその実現には、生産現場の声を積み上げて、党内で議論をリードしていくことが、実現への大きなステップだと言えます。

食料・農業・農村基本法の検証・見直しが始まりましたが、私は、農家・JAの切実な声をもとに、ゆるぎない決意をもって、以下の点を重点に、確かな農政を実現していきます。

1 多様な経営体づくりと、農地利用の集積が不可欠です

フランスなどの国々では、農業の担い手確保に向けて、様々な工夫をしています。「中小・家族経営」や「新規就農」など、多様な経営体をはじめ、農地の適正利用をすすめていくことが重要です。

2 農業者の万全な経営安定対策の確立

昨今、肥料や飼料などの生産資材の価格が高騰するなかで、農業者の厳しい経営が大きな問題になっています。米も需給安定に向けて、国の関与が必要です。農業者の経営安定をはかるため、品目ごとに万全な対策を作り上げていく必要があります。

3 日本の「食」「農」「地域」を守り抜く

規制改革推進会議の動きに見られるような、農業たたき、地域たたき、農業者の尊厳を損なうような競争原理の主張については、きちんと反論し、あるべき将来像を描き、関係者が一体となった取り組みが求められます。



10月6日 議員会館事務室にて



7月26日 JA全青協役員と意見交換

山田としおホームページ

➡ <https://www.yamada-toshio.jp/>

山田としおの足あと（活動記録）や、山田のつくった法律などを分かりやすくご紹介しています。ぜひご覧ください。



ホームページから山田としおメールマガジンにご登録ください

山田の主張や熱き思いを知ることができます。

山田としおフェイスブック

山田の日常を掲載。
ぜひ「山田としお」にいいね！を。



山田としおツイッター

➡ @toshio_yamada1
ぜひいいねやリツイートで山田の活動を広めてください。

山田としお公式ブログ

➡ <https://ameblo.jp/toshio-yamada/>

山田の近況が分かります。